

地球温暖化防止部会2021年度活動報告

定例会合は毎月第3or4土曜日 13:00~15:00 イルミン(活動センター)

代表 本多進

1. エコライフDAY:

- ・協力していただいた方々:入間ガス、ダイハウス工業、JA いるま野、生態系入間支部、地球温暖化防止部会員など。
- ・実施は2021年7月~9月、2021年12月~2022年2月の2回、回収方法は直接受付と郵送
- ・参加者は前年度より減少 夏 640名 冬 618名 計 1258名で目標 2000名に達成せず
環境フェア約 150名及び年2回の見学会で約 80名分がコロナ禍で中止になったため参加者が減少
- ・CO2削減は 夏は 702Kg 冬は 607Kg 計 1309Kg で前年より 58%の減少であった。

2. ダイエットコンクール:

「エコライフDAY2021年夏と冬」のチェックシートを利用し、電力会社の領収書にて電力の削減率と一人当たりの消費電力を発表、参加者に記念品(ギフト券)を送呈

3. 見学会:

- (1)一般募集:計画していたがバスでの移動は密になりコロナ感染の恐れがあるため中止
- (2)部会関係者の見学会:同様にコロナ感染の恐れがあるため全て中止
過去に見学した場所(参考)
ソマールゴム(狭山市)、水素ステーション(狭山市)、石坂産業(所沢)、安川電機、入間ガス、比留間運送、奥井組、カネパッケージ、環境科学国際センター&ソーラーオンザウォーター

4. 第10回いるま環境フェア:2021年10月予定

- ・コロナ禍のため中止となった。

5. ミニ講座

- (1)COP26:英国のグラスゴーで 2021年 11月開催、200の国と地域が参加 ①世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して 1.5℃以内に抑える。②電気自動車の普及 ③世界の森林資源増加 ④石炭発電の減少 ⑤途上国向け援助 ⑥日本は 2030年度までに温室効果ガスを 46%減(2013年比)を発表 ⑦日本は化石賞を受賞
- (2)食品ロス:日本は年間 600万トン、家庭からは全体の 46%、その内未使用のまま廃棄が 34%で野菜が一番多い、対策としては長期保存の効く物を購入、例えば缶詰、冷凍品など
- (3)地熱発電:日本の地熱は世界3位の資源量 23万 Kw、
現在は日本の電力の 0.3%、地熱発電は天候などに関係なく
24時間安定的に発電できる、温泉観光地の反対が多い、
開発期間に時間がかかる、地熱発電所は全国に 19ヶ所、
2030年までに3倍にする予定、
発電して水素に変換する実験が開始された。
- (4)温暖化を防ぐのは大変革が必要:
 - ①現在地球の平均気温は 1.1℃上昇
 - ②地球温暖化は極地ほど大きい。
 - ③永久凍土が溶解してメタンガスが排出、
温室効果 CO2 の 30倍
 - ④飛行機は鉄道より CO2 の排出が 15倍、
 - ⑤牛の影響が大きい(ビーガン料理を好む人が増加、代替肉)
 - ・15億頭の牛が飲む水は人類の5倍、
 - ・ハンバーガー1個 2200Lの水が必要
 - ・ステーキ1枚 3700Lの水が必要
 - ・牛1頭を育てるのに毎日 10分間のシャワー 130年間
 - ・食肉の生産量 1961年 → 現在5倍
 - ⑥アマゾンでは一日 2700haの面積の熱帯雨林が失われ牧場や大豆畑に変えられている。



日本最大の地熱発電所 11万 Kw
八丁原発電所(大分県・九重町)

以上